

支援プログラムの公表

事業所名

さわらび園

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

20 日

法人理念		心身に障害のある人とのかわりを通して、ボランティアの心を育み、すべての人々が共に良い人生を送れる社会づくりを行う						
支援方針		①障がい児療育の基本は人間教育であって、決して特別ではないという原理を基調とする。 ②障がいの早期発見、早期療育を推進していくことを原則とし、障がい児の療育を中心とする。 ③障がい児の全般的な発達にはスタッフと保護者の緊密なチームワークによって促進されることを重視し、保護者の学習の機会を十分に持ち、家庭養育への支援を基盤にした親子療育支援を行う。 ④子どもの真の発達保障と幸福を考えると、あらゆる機関、団体はもとより、地域やボランティアの受け入れを促進し、社会に対する啓発的役割を果たす。 ⑤職員、ボランティアの資質の向上を図る。						
営業時間		9 時	0 分から	17 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	子どもが安心して園生活が送れるよう、日課や場面をわかりやすく設定し、見通しを持って一日を過ごせるような環境を整え、生活のリズムをつくっていく。生活習慣の取り組み（靴の履き替え、着替え、排泄、食事など）を日課の中に入れ込み、子どもが身の回りのことを行う力をつけ、家庭での取り組みにもつなげていく。						
	運動・感覚	大型遊具や感覚的な素材の遊具など、子どもの発達や関心事に合わせたあそびの導入を図っていく。戸外活動等を取り入れ、集団で歩くことや身体を使ったあそびを通して、子どもの運動発達や危険に対するコントロールの状況を確かめていく。						
	認知・行動	あそびの場で様々な遊具を提供し、集団の中での遊具素材や他者および他児の動きへの認知状況を確認しながら、子どもの興味関心が広がっていくような働きかけを行っていく。あつまりや課題設定の場面において、言語指示や視覚的な提示を交えながら、子どもの理解や認知の状況を丁寧に確認していく。						
	言語 コミュニケーション	あつまりやおやつなどの場面において、個別のやりとりをもちながら、現在のこどもの表現を確かめつつ、表現の幅を広げていく。各場面の中で、こどもの心の動きを見つめながら、要求や拒否や選択などの表現を、具体的な言葉や行動での表現に結びつけていく。						
	人間関係 社会性	大人との個別の関係づくりから始め、こどもの他者への意識や関心を引き出していき、職員をはじめ実習生やボランティアなど様々な人と関わる体験を重ねていく。小集団の中で、他児への関心の状況をみながら、介入して子ども同士の関係をつなぎ、具体的な場面を通して他児の存在や他児への関わりを伝えていく。						
家族支援		母親：親子療育、グループカウンセリング、研修会、個別相談 父親：父親参観、父親研修、キャンプや運動会等の行事参加、懇親会 きょうだい：キャンプや運動会等の行事参加			移行支援		進路相談を含む保護者の個別相談の実施 移行先への申し送りおよびアフターケアの訪問	
地域支援・地域連携		自立支援連絡協議会の子ども部会の運営および参加、地域の関係機関向けの研修開催、地域開放・啓発のイベント（盆踊り、バザー）、			職員の質の向上		園内研修（療育場面のOJTと振り返り、こどもの発達、感染症対策、防災、権利擁護等）、法人内研修（全体研修、階層別研修）、各種外部研修への参加	
主な行事等		入園式、こどもの日、七夕、親子療育キャンプ（2泊3日）、運動会、宿泊療育（1泊2日）、クリスマス会、節分、学習発表会、卒園式など 歯科医師によるブラッシング指導						

<療育の目的>

- ◎ こどもの発見と課題付け（個人の可能性）
- ◎ よりよい親子関係の確立（家族関係）
- ◎ 集団参加へのアプローチ（社会性）

*上記3つの目的を療育の柱として、年間を通したプログラムを実施しています。

<療育の内容>

個々のこどもの発達促進及び家族調整を図る中で、こどもとその家族が地域の中で心豊かに生活を営んでいくための援助プログラムをコーディネートしています。

実施プログラム	
<p>発達支援 (プレイ)</p> <p>【運動・感覚】</p> <p>【認知・行動】</p> <p>【言語・ コミュニケーション】</p> <p>【人間関係・ 社会性】</p>	<p>○集団個人プレイ（プレイセラピー）</p> <ul style="list-style-type: none"> *多種類の遊具を用意し、こども個々の興味付けを図っていきます。 *プレイルームは施設せず、個々に根気よく声をかけながら遊びに戻し、安定して部屋で過ごせるようにしていきます。 *大型遊具、感覚遊具など、こどもの発達状況や関心事に応じた遊具の選定が臨機に行えるよう物的、人的な環境を整えていくことで、こどもが集中して遊具素材に取り組む状況を引き出していきます。 *こども個々の発達状況及び集団の状況を観ながら、遊具を限定したり、緩やかな設定を行い、集団素因作りをしていきます。 *具体的な場面で保護者にこどもの状況を観ていただき、家庭での対応を視野に入れながら、必要に応じて個別的な療育説明や保護者全員を対象にした療育説明を実施していきます。 <p>○課題設定</p> <ul style="list-style-type: none"> *体操やリズム、あつまり(シール貼り)など、皆で取り組む固定化した場面を設定し、社会性や表現力を上げていきます。 *順番、簡単な約束事やルールを加味した遊具設定や遊びを行い、こどもの自己コントロールする力や他者関係(特に他児との)を広げていきます。 *玉さしや紐通し、またシールなど指先を使う素材を使って、目と手の協応動作や集中力や持続力を培っていきます。 *絵本、紙芝居、絵カード、実物の素材などを使って、こども一人ひとりの照合領域の確認をしながら、見る力、聞く力を引き出し、こども自身の豊かな表現や生活の中での生きた言葉につながっていくようにアプローチしていきます。 *集団の状況、こども一人ひとりの状況を観ながら、外遊びや散歩(歩行訓練)を導入していき、運動発達面の力、危険に対するコントロール、集団の動きに合わせる力、大人の指示に応じる力を確かめ、引き出していきます。

<p>生活支援</p> <p>【健康・生活】</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 1日の園での日課をわかりやすく固定化し、経験の中で生活習慣を身につけていけるようにしていきます。 * ロッカー、靴箱等を用意し、こどもが自らやっていく環境を整えます。 <p>○食事</p> <ul style="list-style-type: none"> * 栄養士による栄養バランスのとれた給食を提供します。利用児童は当施設が調理する給食を食べていただきます。 * 豊富なメニューを用意し、家庭との連携を密にしながら、こどもの食育環境を整え、少しずつ偏食の改善を図っていきます。 * アレルギーまたは、身体的な状況によって嚥下の指導が必要なこどもに関しては、主治医の指示をお聞きしながら、栄養士との連携の下、特別食の提供などを行っていきます。 * 集団で食べることによって、「いただきます」「ごちそうさま」などの挨拶やマナー、皆がそろそろまで待つことなどの体験をし、皆と一緒に食べる楽しさや意識を育てていきます。 * 食事というこどもにとって分かりやすい目的を通して、エプロンや箸袋の準備、片付けなどの環境を作り、毎日の生活の中でこどもが自ら行動化していく力をつけていきます。 * カバンやエプロン、箸袋、スプーンやフォーク、箸などの用意を保護者にしてもらうことによって、発達を含めた現在のこどもの状況を実感していただき、以後の家庭での取り組みにつながっていくよう支援していきます。 * 園での取り組みが家庭につながっていくよう支援していきます。 <p>○着脱</p> <ul style="list-style-type: none"> * 園服(スモック)を導入し、朝、園で着替える環境を作り、自然な形での着脱場面を通して、着脱衣の自立を図っていきます。 * 上記の取り組みを重ねていく中で、衣服の前後裏表などの理解が自然にできていくよう援助していきます。 * こどもの上靴を用意していただき、登降園や園外療育時の靴の履き替えの機会を自然に作り、自分で履く脱ぐ力、靴の左右及び上下区別の理解などをつけていきます。 * 家庭での普段の取り組みにつながっていくよう保護者の相談にのりながら支援していきます。 <p>○排泄</p> <ul style="list-style-type: none"> * 入園時に、園でオムツをはずすことや着替えを沢山用意していただくことを保護者にお伝えし、園での排泄の自立に向けた環境を整えます。 * 家庭での排尿、排便の間隔をお聞きし、失敗時のこどもの状況を注意深く観察しながら、徐々に時間誘導による排泄リズムの定着を図り、こどもの予告表現を引き出しながら、排泄の自立を図っていきます。 * 園での取り組みが定着してきた時点で、家庭での取り組みにつなげていきます。
----------------------------	--

<p>宿泊プログラム</p> <p>【健康・生活】</p> <p>【人間関係・社会性】</p>	<p>○親子療育キャンプ（2泊3日）</p> <p>*以下5つ目的を基本とし実施していきます。</p> <p>①都会に住む子ども達を鶯の声が聞こえる郡上の自然の中に開放することにより、豊かな情緒を育み、個々のこどもの可能性の拡大を図ります。</p> <p>②こどもの1日24時間の生活に触れることにより、より確かな個々のプロフィールを認知し、以後の療育への足がかりにします。</p> <p>③親子で宿泊することにより、其々の親子像を客観化し、よりよい親子関係確立への方向を探ります。</p> <p>④こども一人ひとりの集団参加の促進を図っていきます。</p> <p>⑤ボランティアの導入により、療育の社会化を図っていきます。</p> <p>*園児全員参加を原則とし、毎年8月に2グループに分けて実施します。</p> <p>*場所は 岐阜県郡上市大和町小間見 545 番地「あさみどりの会郡上山の家研修所」にて実施します。</p> <p>*参加者は、園児と母親、父親、兄弟姉妹、ボランティア、実習生、職員となります。</p> <p>*保護者に対しては、母親及び父親を対象にして研修を企画、実施します。</p> <p>○宿泊療育（1泊2日）</p> <p>*以下3つ目的を基本とし実施していきます。</p> <p>①園児との24時間の関わり(特に夜間対応)を通して、こどもの発達状況の全容を確認し、適応性の拡大を図ります。</p> <p>②保護者への研修（グループカウンセリング）を通して、より細かな自己表現と確認の場を保障していきます。</p> <p>③保護者間の交流を密にし、親睦を図り、精神的な安定と子育てに対する意識の啓発を図っていきます。</p> <p>*園児全員参加を原則とし、2グループに分け、秋に実施します。</p> <p>*場所は 名古屋市千種区新池町1丁目18番地の2 さわらび園にて実施します。</p> <p>*参加者は、園児の他、母親、ボランティア、実習生、職員となります。</p> <p>*母親の研修は、園長及び主任が担当し、カウンセリング等を実施します。</p>
<p>園外療育</p>	<p>*年2回の園児全員を対象にした遠足を実施し、適応性の拡大や集団の動きに対する順応性、指示理解、場面や場所に対する認知の拡大等を図っていきます。</p> <p>*その他、プール、小グループ等による園外療育については、その都度起案をし、園長の決裁を受けて実施していきます。</p> <p>*園外療育中は保護者、職員共に安全と事故防止に努めます。尚、定められた集合時間以前と現地解散後は保護者の責任の元で行います。</p>

<p>行事プログラム</p>	<p>○誕生会</p> <ul style="list-style-type: none"> *毎月1回の実施で、リズム、歌、手遊び、簡単なゲーム等を交えながら、親子で楽しめます。 *集団参加の場として位置づけ、こども達一人ひとりの参加状況を観ながら、他者の存在や周りの状況等を体験的に認知していけるよう援助していきます。 *そこに参加する皆で一人ひとりのこどもの誕生日を祝い、成長を喜び合う場としていきます。 <p>○さわらび運動会</p> <ul style="list-style-type: none"> *年1回秋の開催で、さわらび園児、療育G、学童療育Gのこども達と共に成長発達を皆で確認しあう場としていきます。 *家族、ボランティア、実習生、職員、地域の方等の参加を通して、障がいの理解と療育の社会化を図っていきます。 *競技の練習過程も含めて、療育の一環として位置づけ、運動会当日までの発達プロセスをこども、保護者、職員の三者で一緒に辿りながら、こども一人ひとりの持っている力を最大限に引き出していきます。 <p>○学習発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> *年1回3月に実施し、日々の療育の成果を劇やリズム等の演技にアレンジし、こども達の成長発達を確かめ合う場としていきます。 *練習過程も含めて、療育の一環として位置づけ、この1年間にこども一人ひとりが獲得してきた力を最大限に引き出していきます。 <p>○その他の行事</p> <ul style="list-style-type: none"> *その他の行事に関しても、日々の療育の一環として位置づけるとともに、こどもにとっての様々な経験の場として保障していきます。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> *療育センターよりケースワーカー及びPT等の派遣を通し、こども一人ひとりの支援に関して連携を深め、園及び家庭における具体的な取り組みにつなげていきます。 *主治医及びPT、OT、ST等の訓練を受けているこどもに関しては、各々訓練機関より普段の生活の中での留意事項及び指示の内容をお聞きしながら、園の療育の中につなげていくための相談を随時行っています。 *3歳児以上を対象に地域の保育園との交流保育を実施し、こども一人ひとりの集団における発達課題をより細かく明らかにし、以後の支援及び進路等の相談につなげていくとともに、療育の社会化を図っていきます。

児童発達支援事業
自己評価
(令和6年度)

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さわらび園		
○保護者評価実施期間	2025年1月16日 ~ 2025年1月31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2025年1月21日 ~ 2025年1月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月21日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【本人支援】 ・子どもが安心して通って来れるような一人ひとりの関係づくりを支援の基本にしている。 ・環境設定の工夫や見通しを持ちやすい日々の支援プログラムをベースに、年間を通しての社会性の拡大を意図した年間プログラムを組んでいる。	・一人ひとりの子どもとの個別関係をつくる。 ・子どもの興味関心を知り、そこを起点に子どもの可能性を探る。 ・療育室の環境の工夫(視覚的な刺激の調整など)を行っている。	・発達や特性を捉えたあそびを充実させていく。(感覚統合的な要素を入れた遊びや、部屋の使い方の工夫など)
2	【保護者支援】 ・週1日(新入園は入園半年は週2日)親子登園日を設け、保護者と共に子どものことを共有している。その中で、保護者の子どもへの思いや願いを知りながら、保護者の気持ちに共感したり、寄り添った支援をしている。 ・母親グループカウンセリングや研修会を実施したり、父親には療育参観や研修の機会を設けている。	・保護者に日々声をかけ、コミュニケーションをとっている。 ・園での取り組みを家庭につなげていけるように、保護者と話をしながら進めている。 ・子どもの具体的な姿を通して、共通理解をするようにしている。 ・ピアカウンセリングや、様々な分野の講師を招いての研修会を充実させている。	・各保護者の状況に合わせた対応を意識していく。 ・保護者が何を求めているのかをキャッチできるようにすると共に、こちらの目的やねらいを保護者にわかりやすく伝える工夫をする。
3	【職員のスキル向上に向けた取り組み】 ・子どもや療育のことを学び、知るための機会を日常的に設けている。	・療育的視点や発達心理学的な視点でのOJTを受ける機会を日常的に設けている。 ・法人内外の研修に参加し、学ぶ機会を設けている。	・研修を含め、学ぶ機会は多くあるので、それぞれの機会を各職員が療育現場に持ち帰り、実際の子どもの支援及び保護者支援に繋げていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【環境面】 ・部屋のスペースが限られているため、親子での療育の際などは、プログラムや環境の工夫が必要である。	・親子療育などの人数が多い時には、普段の部屋の活動スペースだと手狭に感じる。	・プログラムによって、部屋の使い方を工夫する。(より広いスペースに移動したり、隣のグループとの合同療育等でパーテーションを開放したりする) ・戸外の活動を増やす。
2	【地域交流】 ・地域の子どもとの交流の機会が限られている。	・まずは園の生活に慣れることで、毎日一緒に過ごす職員や他児との信頼関係づくりから始めており、地域との交流はその次のステップとなっている。 ・交流保育はコロナ禍を経て、取り組みを戻したものの、交流先の人数等もあるため、すべての子どもが交流できているわけではない。	・地域の祭りなどへの参加を検討する。(今年度は進級児のクラスで実施。子どもの状況を観ながら、新入園児も見学等での交流を工夫する) ・交流保育の取り組みを継続する。(今年度クラス交流を実施。上記同様子どもの状況を観ながら、計画する)
3	【中核的機能】 ・通園の直接支援業務が主となるため、職員自身が地域のことを知る機会が限られている。	・現在は、事業所を代表して、相談支援専門員が主となって地域とのつながりや連携を持っている。 ・自立支援連絡協議会でのテーマによっては、通園職員も一緒に参加することはあるが、参加回数やメンバーは限られている。	・自立支援協議会などへの職員の派遣を通して、地域の資源を知る機会にしている。 ・自立支援連絡協議会や各団体の主催する研修に職員を派遣し、地域のエリアとの連携や児童発達支援センターとしての役割などの視点を学ぶ機会を設けていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 さわらび園

公表日 2025年 3月 27日

利用児童
数

年 月 日

回収数 27

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	21	5	1	0	・クラスごとの部屋が比較的狭いと感じる(特に母子療育日)。 ・外遊びの機会がもう少し欲しい。	・まずは室内で子どもが安心・安全に過ごせること、大人を手がかりに過ごせるようになることを目標に、意図的に屋内の活動を特に初期は多く持っています。 ・子どもたち単独での活動時には天候や子どものコンディションをみながら外での活動も取り入れています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	6	0	1	・職員の数は十分だと思うが、兄弟の面倒を見ている時間が長いため、結果的に配置数を物足りなく感じてしまうこともある。 ・活発な園児への関わりが多く、大人しい園児が放っておかれていると感じるときがある。	・配置基準以上の職員配置をしています。今回ご意見のありました、きょうだい児への対応、個別的な園児への対応につきましては、改めて職員間で共有して意識していきたいと思っています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	25	2	0	0	スッキリと整理されており、視覚的にも考慮されていると思う	・室内の環境は今年度見直し、視覚的な情報量を意識しています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24	3	0	0	・部屋もトイレも玄関もとても清潔に保たれている。 ・健康管理のために、空気清浄機や加湿器を設置した上で、換気で窓を開けています。 ・寒かったり暑かったり、なかなかちょうどよいときがない。 ・子供の手洗い場の蛇口を冬場は温水が出るようにしてほしい	・毎日職員で清掃しています。 ・健康管理のために、空気清浄機や加湿器を設置した上で、換気で窓を開けています。 ・手洗い場は一部の蛇口は温水対応となっています。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	6	0	0	・親でさえ中々理解してあげられない時や苛立ちを感じる子供の行動に職員全員が丁寧な関わりを持ってくれている。 ・職員によって支援の差を感じる。	・すべての職員が一人ひとりの子どもを知り、理解する姿勢で受け入れをしています。経験年数や職種によって見えてくる子どもの姿を共有し、チームで支援に当たっています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22	4	0	1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	26	1	0	0	・先生全体で子供の日常行動を正しく捉え、定期的に親とも課題や解決方法を話し合ってくれているのと、紙面でも貰えるので適切な計画が立案されていると思う。	・日々の療育の中で子どものことを把握し、母子療育やカウンセリングを通して保護者のニーズも確認していく中で、子どもの計画を作成しています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	24	2	0	1		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	26	1	0	0	定期的にも面談していただき、計画の見直しをしていただいているので、ありがとうございます。	
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23	4	0	0	・可能な限り柔軟な対応をして貰えている。 ・外遊びや調理があったのが楽しそうでした。 ・プレイの時間に使うおもちゃの種類は入園から卒園まであまり変化がないと思う。	・学期当初に立てる療育計画書を基に、その時の子どもや保護者の様子を観ながら、活動プログラムを組み立てています。 ・使用玩具については、子どもの発達状況の変化をとらえるため、意図的に同じ素材を使用して遊びの変化を確認するという理由もあります。

保護者への説明等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	13	7	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の子の交流はあるが全員はできていないので、もう少し機会が増えたい。 ・我が子も含めて、いろいろなハンディを抱えたお子さんがいらつしやるので、交流するときには、より細かなサポートが必要になると思います。なので、交流してほしい気持ちはありますが、現実的には厳しいと感じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度5年ぶりに交流保育を再開しました。当園での療育経過が重なり、安定して過ごしているクラスを対象にしたクラス交流や、保護者へのフィードバックも目的とした一部園児の交流を行いました。次年度以降も継続予定ですが、交流先の状況もあるため、一部園児が代表して交流というかたちをとっています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23	3	0	1	特に母親の参加が多い事は入園から知った。	入園面接の際に、これらの説明はさせていただいております。また、見学の際にも日々のプログラムと保護者参加について説明させていただいております。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26	0	0	1	親以上に、我が子のことを見てくださるので、いつも気づかされることばかりです。大変ありがたいです。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	25	2	0	0	ペアレントトレーニングはもっと積極的に取り組んでいただきたい。	・さわらび園では、家族支援プログラムとして、母子療育への参加、母親グループカウンセリングの実施、サポートブック作成講座、母親研修会等の機会を年間を通して行っております。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	26	1	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・問題があれば話すが、日々はない。 ・先生に寄って、その日の事を話してくれる熱量が違うと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員と毎日たくさんお話する機会を平等に持っていないとは思いますが。母子療育や登降園の際に少しずつお話する機会が持てたらと思っています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	27	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・親の様子を見て、話しませんか？と声をかけてくださった。 ・お忙しい中、面談の機会をつくってくださって、大変ありがたいです。 	・これからも親子の様子をみて、お話をする機会をもっていきたいと思っております。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25	2	0	0	いつも母親の意向を確認してくれる。	・これからも保護者のお子さんへの願いや思いを丁寧に聞き取りながら、一緒に子どもの育ちに関わっていききたいと思っております。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	24	2	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・家族全体をサポートして下さるので、大変ありがたい。 ・親の交流はあるけれど、きょうだいの交流を目的にしているものはほとんどないと思う。 ・交流の機会を設けるのは非常に良いことだが、母親の研修がやるのが多すぎて負担が大きい。 	・日頃の療育や親の会の活動を通じて保護者間で関われる機会を提供しています。また、きょうだい児では、親子療育キャンプの参加等を通して親しくなっていく子どもたちの姿があります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	26	0	0	1		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	24	3	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	19	4	1	3	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリの導入により情報や予定の連絡がスムーズになったが、毎月ギリギリなので、先の予定が組みにくい。 ・来月以降の予定は、もっと早く知りたいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、コドモンの利用により、手元で予定等を確認いただけるようになりました。 ・園の予定については、園外の予定との調整もあるため、確定できる頃にアプリを更新するようになっています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25	1	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・留意されているが、普段の活動生活はともかくイベント時の撮影が禁止するのは納得いかない。写真が販売されるわけでもないのに記念として残らないのは非常に残念。SNSにあげることを禁止とか明確にすれば皆ルールを守る人たちだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事への参加は、親子でともに参加することを基本としており、子どもの安全や気持ちを共有する観点から、運営上、目の離れる危険性のないように、日々の療育や親子で参加する行事の写真撮影については控えていただくようお願いしています。写真販売はクラス写真として行っていますので、今後ご理解ご協力をお願いいたします。

非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23	0	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルはあると思うが、どのようになっているのかはわからない。 ・玄関入り口ドアが誰でも入れる様になっているので、防犯上関係者以外は入れないように、暗証番号付きのドアにするなどセキュリティを強化した方がよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのマニュアルを策定し、定期的に職員で訓練しています。周知や説明の機会を検討していきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	27	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練では緊迫した雰囲気リアルに再現してくださり園児も静かに指示に従っている。 ・避難訓練は、いざという時のために、大切なことですが、日常生活では、つい意識が薄れがちです。定期的な避難訓練のおかげで、本人はもちろん、家族の意識も高まります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢や地域の特徴を日々確認しながら、火災や地震を想定した避難訓練を行っています。今後も、その時が来ても皆で対応できるよう、訓練を重ねていきます。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思えますか。	25	0	0	2		
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思えますか。	21	3	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・子供同士で怪我が発生した場合、怪我をさせた親にも、怪我してしまった親にも同等に説明をしてほしい。 ・先生による。こちらなら聞かないとわからない時もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に子ども同士の不慮の事故が発生した際には、それぞれの保護者に経過等説明をしています。今後も保護者や子どもが不安にならないような説明を心がけていきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	25	1	0	1	<ul style="list-style-type: none"> ・この園を立ち上げてくださった方々、携わってくださっている全ての方に、感謝の気持ちを伝えたいです。 ・先生方やお友達に会うのは嬉しい様子だが、過去の状況から時々玄関の雰囲気や泣き声などでパニック発作になり通所時に逃げ出すか暴れる時がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方に安心や楽しみと感じていただけてとてもうれしいです。今後も、子どもたちや保護者の方にも安心して楽しみに通っていただける場所にしていくよう、職員一同努めて参ります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	32	2	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 言葉では言えませんが、安心できる居場所であることは、我が子の笑顔を見ると、間違いありません。 	
	29	事業所の支援に満足していますか。	24	3	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子供だけでなく研修やカウンセリングなど、母親にとっても手厚い。 ・療育に関しては子供にも親にも寄り添っていただき、大変満足しています。ただ、行事の準備やハザ一品の作成など、母親の負担が大きいと感じました。行事などの負担が減れば、さらに母親のストレスが減り、療育に集中して取り組めると思っています。 ・ありがたい部分の大きいですが、普段の療育中の写真動画撮影が出来ないので、それに対する対応(写真販売)の機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で日々親子のためにできる支援を考えながら、受け入れをさせていただいております。今回いただいた総合的な意見も意識しながら、次年度以降も安心して通っていただけるよう努めて参ります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		さわらび園		公表日		2025年 3月 27日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	2	・必要に応じてパーティションを利用して部屋の大きさを調整している	・人数や用途に応じて部屋のスペースが変えられるようなパーティション設計となっているが、子どもの状況や家族数に応じた部屋の使用については今後も工夫をしていけるとよい。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	5	・看護師を配置し、今後の医療的ケア児の受け入れ体制と子どもの体調管理の把握をしてもらっている。	・直接処遇職員の配置は基準以上の人員配置をしている。こども一人ひとりの状況に応じた支援を提供できるようチーム力を高め、どんな工夫ができるかを改めて検討していけるとよい。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14	2				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	1	・部屋は毎日掃除できているが、細かな箇所については、もっと清潔に受け入れできるとなお良いと感じる。	療育室は子どもが安全に過ごせるよう毎日清掃をしている。靴箱、ロッカー含めたより細部な環境にも改めて清潔で心地よい空間となっているかを確認し続けることが大切だと感じる。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13	3	・療育以外の空間を上手に利用している。 ・別部屋での移動がしやすく想定されて日々の療育がされている	現状、必要に応じて療育室以外の部屋を使用できる環境にしてあるので、今後も状況等に応じた柔軟な対応をしていけるとよい。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	12	4	・各業務でその日行われた振り返りに参加できなかった人のためにも議事録を残し、いつでも見返せるようにしている。	各クラス職員間で行っているが、他業務や職員の公休が重なったりすると特に振り返る時間が十分に持てないことがある。現状は会議録で共有できるようにしているが、今後時間設定をさらに持ちやすくするためにどんな工夫ができるか検討していきたい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	1		年1回評価表を実施し、意向等の把握に努めている。可能な範囲で業務改善に今後もつなげていきたい。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	4		会議や研修で、意見等を把握する機会を設けている。必要に応じて面談も行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	7		現時点では第三者評価による外部評価を受けていないので、今後の課題。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15	1	・自分が受けたいと思う研修が時間の都合で受けられなくても、会議で研修の報告があり、どんな研修だったかを知ることが出来る。 ・法人内の研修は活発に行っている。	研修の機会は法人内外で多く持っている。今年度より出張報告の機会を増やした。今後さらに受講者から、他の職員へ研修内容が伝達され共有できるようにしていきたい。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14	2		現在の支援プログラムの定期的な見直しや、公表については今後予定している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	16	0		日々の療育の中で子どもの状況把握を行い、保護者の意向を確認した上で、客観的に子どもの課題を整理し、計画作成をしている。今後もそれぞれのよいような計画作成を意識していきたい。		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	16	0		計画作成には、子どもの支援に関わる職員で会議を開き、職員間で原案をもとに検討を行い、作成している。適宜、支援の進捗状況を確認しているが、計画に沿ったものとなっているかを意識しながら今後も支援を重ねていきたい。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15	1		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	1		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	16	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14	2		日々の活動についてリーダー職員が主で組み立てることが主ではあるが、今後チームで立案に向けて話し合っていける時間を持っていけるとよい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	16	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	1	事前に担当を決め、その日の療育がやりやすいようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	6		支援終了後は、清掃、見守り一時支援、行事準備と次の予定に向けてそれぞれが動き出すため、振り返り、打ち合わせの時間が十分には持っていないため、伝達や時間の工夫をしていけるとよい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	16	0	日々の支援記録を残し、支援状況等の振り返りや見直しに繋げている。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	16	0	基本的に6カ月ごと、あとは必要に応じてモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。		
関係機関や	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15	1		
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	16	0		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	1		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	13	1	卒園後のアフターケア訪問はこれまでも行っているが、近年は就学相談の時点から、学区の先生方との情報共有等をしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	15	1		

保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	16	0	様々な分野の研修に参加の機会を設けている。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	16	0	現状はセンター内の相談支援専門員が主で参加しているが、企画内容によっては通園の職員も参加している。	今後、企画内容等も見ながら、通園職員も地域の協議会等への参加を進めていきたい。
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	16	0	今年度地域の保育園との交流保育を5年ぶりに再開。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	1		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	16	0	園内で母親グループカウンセリングを実施している。また、母親研修会を実施している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	16	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	16	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	16	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16	0	母子療育や母親グループカウンセリング、また必要に応じて個別相談の時間を設けながら保護者と話をする機会を設けている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	16	0	母親の会の開催及び活動の支援をしている。きょうだい児は夏季期間に行われるキャンプでの交流の機会を設けている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	1		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15	1	アプリを活用し、行事連絡等がインターネット上で閲覧できるようにした。また、SNSを通じて開催した行事の報告等もやっている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	16	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	0	7月に新池盆踊り、2月にさわらび祭を実施し、毎回多くの地域住民の方にお越しいただいている。	
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15	1	記述されたすべてのマニュアルがある訳ではないが、その都度確認し、訓練実施を行っているものもある。	より具体的なマニュアルの作成を今後検討していく。	

非常時等の対応	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	16	0		防災訓練の一環として、単独療育時の災害を想定とした引渡しの訓練があるとよりいいのではないかと思う。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	16	0	事前に確認し、通院後の最新の診察状況も確認し、看護師含めクラス職員で共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	16	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	16	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	16	0	園内にて虐待防止及び身体拘束等適正化委員会を設置し、研修の企画・開催を行っている。また法人内でも年1回研修の機会を設けている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14	2	児童発達支援計画の別紙にて記載、説明している。	

保育所等訪問支援事業
自己評価
(令和6年度)

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターさわらび園		
○保護者評価実施期間	2025年1月15日		2025年2月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2025年1月15日		2025年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	2025年1月8日		2025年2月14日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	13	(回答数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・一人ひとりの子どもに対して、訪問先で丁寧な支援や関わりができています。育ちの中で変化していく本人の発達課題や集団課題への目標をとらえて、継続的な支援を行っている。	・訪問の際の具体的な子どもの姿から、子どもの発達や情緒の動きについて丁寧に捉えることを意識している。	・子どもへの丁寧な関わりや支援、職員への助言を継続して行いながら、訪問先や保護者へのフィードバックする場の設定を工夫していく。
2	・保護者への支援計画やモニタリングの確認では、子どもの現在の姿や支援経過を丁寧に説明するなど、保護者とのこどもの捉えの共有を大切にしている。	・就学前の子どもについては、事業所での並行グループで、保護者と共に、小集団でのこどもの姿を確認する機会を持っている。また、サポートブックの作成講座などの保護者向けの学習会を取り入れ、保護者のこども理解を深める取り組みを行っている。	・左記のような機会が提供できない保護者に対して、定期的な個別面談等でこどもの姿の共有や理解を深める機会を保障していく。
3	・訪問先のニーズを把握し、その思いや願いに寄り添いながら、こどもの姿を共有している。	・「何に困っているのか」など、訪問先の先生の思いを丁寧に聴き取りながら、訪問先のニーズに応じた助言や相談援助等を行っている。	・子ども本人の視点に立ち、現在のこどもの発達状況やこどもの表現から見えてくるものを大切にしながら、こどもの姿を訪問先の先生と共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問支援を実施したその日のうちに、訪問先の先生へのフィードバックや意見交換をすることが難しいときがある。	・訪問先の状況によっては、訪問の際に直接先生と話をすることが難しい場合がある。(集団に対して先生一人だったり、活動内容等にもよる)	・例えば、学期に1回、訪問先と直接話をする機会を設けていただくなど、効果的なフィードバック方法を工夫し、訪問先へ提案していく。
2	・訪問先、保護者、訪問支援員の三者での連携という部分では、十分な共有ができていない。	・訪問先と支援者、支援者と保護者、保護者と訪問先それぞれでの話はできているが、三者間で話し合う機会はほとんど設けることができていない。	・訪問先とのフィードバックに保護者に同席してもらうなど、三者でこどもの姿を共有する機会をつくれるよう、訪問先に働きかけることを検討していく。
3	・保育所等訪問支援計画の保護者への提示時期が遅れている。	・保護者との面談の都合を合わせるのに、時間がかかっている。特に、就労している保護者は来園できる日程や時間帯が少なく、調整が難しい。	・調整に時間がかかることを見越して早めに連絡をとることを意識する。 ・面談時間の確保が難しい場合は、計画確認と内容の説明を優先し面談の機会は別途設定するなどの工夫を重ねながら、適切な時期に計画やモニタリングの確認を行っていく。

公表

保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名 さわらび園

公表日 2025年 3月 27日

利用児童数 年 月 日 回収数 13

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	3	1	1	8	訪問支援に教具教材を使うことがあることを初めて知りました。	教具教材とその使用については、まず本人にとって必要かどうか、その上で訪問先の環境や願い等にもよるものと考えています。
	2 プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	10	1	0	2	いつもゆっくり話を聞いていただいています。職員室の中を通らなくていいとより気楽です。	1階事務所等、建物内に複数の面接室を整備しています。
	3 事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	9	2	0	2	何をするか、しっかりと説明していただいています。	希望があった時点で契約前に必ず事業説明の時間を設けています。
	4 保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	11	0	2	0	毎回この日に訪問しますと連絡があるだけで相談されたことはありません。学校側の意見が反映されたように感じる。	事業説明や契約の時点でも説明していますが、保護者の思いを聞き取ったうえで、本人の状況を確認するに適した時間や頻度を訪問先と決定し、保護者に連携しています。
適切な支援の提供	5 こどもの状態に応じた支援が提供できる職員(職種や人数)体制だと思いますか。	9	2	1	1	人数多めに、手厚くサポートいただいています。	個別給付の支援のため、基本的にはこども1名に訪問支援員1名の体制で行っています。
	6 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9	3	1	0	・専門性があるかは不明。 ・子どもをよく観察して、的確な言葉がけや導くをしていただいています。	さわらび園では療育の視点で子どもの発達や特性をとらえて支援をしています。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	11	0	0	2		
	8 保育所等訪問支援計画(個別支援計画)には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	7	2	2	2	連携を取りながら、子どもをサポートしていただいています。	保護者からの意向、本人の視点を基に、集団先での意向もとらえながら、計画を作成しています。保護者にはそのことを改めて周知していきようにします。
	9 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	1	0	4		
	10 保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9	3	0	1		
	11 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	10	2	0	1		
12 事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	0	1	1			
13 「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	1	0	0	最初の頃はありましたが、最近は定期的に出されるはずの支援計画書をいただけていません。したがって説明もありません。	今年度は実際に個別に丁寧に話をする機会を設けてこられませんでした。今後、計画の確認の遅延にならないよう努めていきます。	
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	10	0	1	2	・アナウンスはありません。 ・子どもにとっての支援というより、子どもの今の状況や課題を親が考える機会になっています。	療育グループ在籍児の保護者には支援プログラムを用意しています。在籍のない方においては、園で研修会の把握をした際に、情報提供していきたいと思っています。	
15 必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	10	0	3	0	フィードバックや面談がほぼないので問題を共有できていないとはあまり思えません。		

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	1	2	0	・こちらから動けば機会を得ることはできると思いますが、園からの働きかけは特になく、支援計画書も貰えないので定期的な面談などありません。 ・的確なアドバイスがあり、教わっています。	利用希望の際のニーズの聞き取りだけではなく、保護者の発信を受けたり、共有していけるような体制を整えています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10	1	1	1		
	18	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	0	0	4		
	19	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	1	1	1	意思の疎通や情報伝達がきちんと行われていた感じはありません。	今年度、個別相談や面談の時間が丁寧に設けられませんでした。次年度は改善すべく、環境の工夫を意識していきます。
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	9	0	1	3	通園している子ども園で初めてのケースだったようで、大変助かっていると伺っています	
	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	10	2	0	1	実際の訪問支援の日とは別日で園の先生と話し合う日を作っていたようなので、そこで話し合いがされていると思います(支給日のうち1日はそのように利用されていました。)特にそう言った報告は聞いていない。	訪問先の状況等によって、実施日もしくは別日に支援内容について共有する機会を設けるようにしています。
22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	9	1	3	0	フィードバックはほぼありません。支援計画書も定期的に貰っていません。	1日複数の支援先にかがうこともあるため、即時的な共有は難しいと思いますが、共有に向けての工夫は今後検討していきます。	
非常時等の対応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6	1	2	4	そのような取り組みがあるというアナウンスはありません。	自己評価は今年度より実施しています。今後ホームページを通じて発信していきます。
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	0	0	1		
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	3	2	0	8	非常時の対応についての話をされたことがないので分かりません。	緊急時に各訪問先でどのような対応をしているのかを確認した上で、事業所の対応・実践に繋げていきます。
満足度	26	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3	3	0	7	そのような周知はなかったです。	
	27	子どもは訪問支援を嫌がっていませんか。	11	2	0	0	・園で支援員さんに会うと気持ちが崩れることがよくあった様子。 ・嫌がっていないです。 ・嫌がる時もある。	
	28	事業所の支援に満足していますか。	11	0	1	1	・なんのためにこの制度を利用しているのか分からないことが多くあり、支援計画書やフィードバックがあまりなかったため、意義を感じられませんでした。 実際に訪問支援に来てもらっている時の様子を見る機会もありましたが、支援をお願いしている子以外の子どもかかわっていたり、教室にいなかったりと見えない場面がよくありました。 ・まだ始まったばかりで、分からない。	訪問支援は保護者の希望から始まりですが、子ども本人にとって必要で適切な援助になっているのか、確認しながら支援を行っています。終了時の見極めについても保護者や訪問先と検討していきます。

公表

訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名

公表日 2025年 3月 27日

さわらび園

利用児童数 年 月 日 回収数 14

チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1 訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	12	2	0	・職員間での信頼関係が築かれており、助言を受け入れて子どもの対応をしている。 ・聞きたいことに耳を傾けてもらえ、助言も具体的かつ的確である。	・今後も、訪問先の先生が何に困っているのかを聞いた上で、助言ができるよう努めます。
2 訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	10	4	0	・園の指導に参考にしている。 ・訪問日に対象児が落ち着いていることが多く、特に支援を必要とする場面がなかった。 ・わかりやすく具体的な助言をもらっている。	・今後も子ども本人の視点や発達状況を大切に支援にあたっていきます。
3 訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	12	2	0	・経過や今後の見通しなどを気軽に聞くことができている。 ・丁寧に対応してもらっている。	・今後も適切な助言をしていけるよう努めます。
4 保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	11	3	0	・保育だけの考えでは足りないところを補ってもらっている。 ・子どもが落ち着いた。 ・他の子の関わりのヒントにもつながった。	・先生方の悩みや困り感に寄り添い、先生方の中でそれらが解消されていくような援助をしていきます。
5 事業所からの支援に満足していますか。	11	3	0	・とてもあたたかく見守ってもらっている。 ・長期的に寄り添い応援してもらえ、大変心強く思っている。	・今後も期待に添えられるような支援を目指します。
その他のご意見	ご意見を踏まえた対応				
・毎回対象の子どもの個別の様子だけでなく、集団の中でどのように関わっているのかなど広い視野で見守って下さっています。小さな疑問にも丁寧に答えて下さり、また職員の間にも温かいお声をかけて下さって本当にありがとうございます。 ・教職員の知識、技術の向上のみならず、気持ちの面でも負担削減になっております。	たくさんのお返事をありがとうございました。各訪問先の先生方や環境、そして何より対象児童の状況に応じた支援がしていけるよう、これからも努めていきます。				

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		さわらび園					公表日	2025年 3月 27日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点		
環境・運営・体制整備	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	3	0	・対象児が生活している環境を観察し、訪問先の状況に合わせて準備している。 ・現在、訪問先には教材を持ち込んで支援はしていないが、療育の視点での支援を保育者と共有することで、ニーズには応えられているのではないかとと思う。	・教具教材が必要かどうかは、対象児や対象先によると思われる。		
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	0	適切に配置されている。			
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	0	・園としての支援の方向性は会議等で確認している。			
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	1	・今年度より実施	・今後も年に一度実施していく。		
	5	従業員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	1	・支援に入る時は、ひとりで行うことが主のため、会議でケース検討することで業務質の向上や今後の対応につなげることができる。	・今後も定期的に会議を持ち、意見等の確認をしていく。		
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	2		・現在、外部評価は取り入れていないので、今後の課題。		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2	1	・全職種対象のものや階層別での法人内職員研修を実施 ・外部で企画された研修への受講	・今後も法人内外の研修には積極的に参加する機会を設けていく。		
適切な支援の提供	8	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	3	0	・訪問先の方と対象児について話したり、お互いの見立てを共有しながら連携を取ることで、対象児への理解を支援員一人の判断にならないようにしている。			
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	0				
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	3	0				
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0				
	12	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	0				
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	3	0				
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	0	※(設問11)と同じ質問			

	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで運携して支援を行っているか。	2	1	・朝の打ち合わせで、当日の支援先の確認はしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	1	2	・専任が1名配置だったり、また、1日に複数の訪問先に支援に出かけたりするため、当日中に支援の振り返りの機会を設けることがなかなか難しい。	
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	3	0		
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	3	0		
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3	0	・適切な見直しを行っているが、時期が遅れがちな点はより適切な時期に行えるといっている。	・計画の確認時期が、対象児や保護者にとって適切な時期となっていくことは課題。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	0	・召集の声がかかったときには積極的に参画している。	・今後も必要に応じて、相談支援専門員へ対象児の状況について情報提供を行っている。
	21	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	0		
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	0	・就学先に関しては、より丁寧な移行支援ができるような体制を整えたい。	
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2	1		・訪問支援に特化した研修自体は愛知県や名古屋市自体が少ない状況のため、支援につながると思われる研修の企画があった際には参加の機会を設けていく。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1	2	・事業所としては、相談支援が積極的に参加しているが、保育所等訪問支援員も支援時間が調整できれば参加できていいかもしれない。	・支援時間と、地域のあつまりの時間が午前中に重なることが多いため、日々の支援の調整が可能な範囲で検討。
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	3	0		
保護者等	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	0	・療育グループに参加している保護者に対しては、できている。 ・個別給付の事業のため、ひとりひとりに合わせた提供に難しを感じている。その都度必要がある時に対応している	・希望者すべてに研修の機会を直接設けられていないので、一般参加できる研修の情報提供などを通じて、家族支援プログラムへの参加を案内していく。
	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3	0	・契約時に説明。	
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	3	0	・事業説明を必ず行っている。	
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3	0		
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	3	0		・計画の見直しや提示の時期については、適切な時期に行っていくことは課題。
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	3	0	・保護者の方と直接会う機会が少ないため、家族支援は、意識していないと実施できない支援の内容のように思います。今後も、意識していきたいです。	

への説明等	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	3		・現時点では、家族会の企画までには至っていないので、今後の課題。
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3	0		
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1	2	・法人のホームページにて連絡先を掲載していたり、法人の活動概要の発信のために同じくホームページやSNSを活用していたり、機関誌を発行している。	・ホームページの掲載ページをより具体的にしていく。
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0		
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	0		
	訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	3	0	
38		保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	3	0		・支援先の状況もあるので即座にカンファレンスは難しいが、時間を確保していきけるよう今後調整していきたい。
39		保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	3	0		
40		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	0		
41		訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	3	0		
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	1	・訪問先の状況に合わせる必要があるため、災害時の対応は、今後、具体的に検討していく必要があると思う。 ・記載のものすべてのマニュアルはないが、その都度対応が必要な際に職員間で確認している。	・さわらび園全体としてのBCPなどは策定されているが、訪問時の安全管理をどうとらえていくかは今後検討していく必要がある。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	1	2		
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2	1	・現時点ではヒヤリハットに該当する事案はない。	・今後ヒヤリハットが発生した際は、事業所内で共有および再発防止に向けた検討をしていく。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3	0	・法人全体職員研修にて実施している。	
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	1	2	・契約時には重要事項説明書にて、虐待防止に努めることや不適切対応を防ぐための記載を説明している。	・書式の見直しを図る。